



いじめ見逃しゼロ運動

6月に続き、いじめ見逃しゼロ運動2回目が11月の1か月を通して行われました。「生徒自身がそれぞれ考える活動」を生徒会本部が企画・運営しました。その様子を紹介します。

リフレーミング掲示板

リフレーミングとは、物事の視点を変えて違う視点から見ることです。ホワイトボードに掲示されたネガティブな言葉のお題を、全校でポジティブな言葉に変換しました。自己肯定感を高めることで、いじめを防ぐねらいです。

お題が変わる週ごとに、全校から多くの意見が寄せられました。

1学年の取り組み

1学年が目指すのは「協力」です。学年目標の「いちがくねん」に「くふうして協力し合おう」という意味が含まれています。協力を強めることにより、みんなの絆がさらに強く結ばれ、いじめのない仲がよい安全な学年になると考えたからです。クラスごとに足りないものを考え、目標を決め、実行しました。

生徒会に週替わりで掲示されました。



成績を学年朝会で発表しました。

2学年の取り組み

2学年のテーマは「みんなが安心安全な学校生活を送るために」です。実現するために各学級で取り組むテーマを「メリハリ」にしました。課題が学級ごとに異なるため、目標と内容を各学級で設定しました。チャイム着席ができていない、挨拶の声が小さい、私語が多いなどです。

活動を振り返ると、協力してくれた人、意識して取り組めた人が多かった、先生から褒められたなど良かった点と、授業の挨拶が意識しても変わらない、など改善点がありました。

変化したことは、発言しやすくなったり、授業が盛り上がった、時計を見て声を掛け合って行動できるようになったことです。今後も継続して取り組んでいきます。

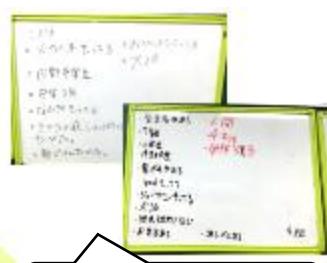
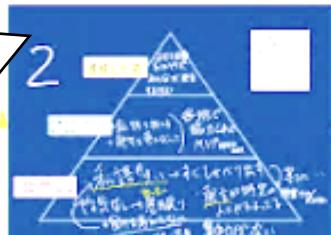
3学年の取り組み

3学年で取り組んだのは、共通点探しゲームと褒めの花束です。

共通点探しゲームは、グループ内でみんなに共通しているものを探し、クラスで点数を競い合うゲームです。ねらいは、人のことを決めつけず、違いを認め合つて仲良くなることです。この活動から、自分とメンバーの共通点を多く知れたという感想や、偏見や決めつけをやめたいという意見が出ました。

褒めの花束は、1人につき1分間、その人の良いところをたくさん出して書きます。クラス全員分書いて渡します。相手の良いところを見つけ、悪口などの言葉によるいじめをなくす目的です。クラスメートのことを身近に感じられた、仲良くなるきっかけになったというプラスの感想の生徒が多かったです。

具体的にしたいメリハリをツールを使って考えました。



共通点探しゲーム



褒めの花束

いじめ見逃しゼロスクール集会 11月26日(水) 5、6限 「価値観の違い シンキングエラーを考えよう」

はじめに各学級で安心できる学級について話し合いました。

次に、生徒会本部の生徒による劇を視聴し、いじめの起きる雰囲気を知り、登場人物の気持ちをいじめられる側、いじめてしまった側についてそれぞれ考えました。この劇の登場人物だったら、どんな行動ができるかを考えて意見を共有し、改めて5限の最後に、安心できる学級にするためにできることを考えました。

6限は他学年との意見交流をしてから、劇の解説動画を見ました。集会の最後に全員でいじめ見逃しゼロ宣言をしました。

いじめの定義を確認した後、劇の中で起きたシンキングエラーの解説の様子

つまり…

ふざけていただけのつもりでも
いじめられる側が嫌だと感じていたら
いじめになる！

シーン3

この場面ではAさんとBさんが話しています。Aさんは普段Cさんたちに「目立ちたがりだよな」といういじりを本当はいやがっていると話しています。なぜAさんはいじられ続けているのでしょうか。



なんか気まずい感じ
になつたら嫌じゃん

価値観の違いに気づく 指摘する

シーン4

この場面ではAさんは「いやいや、違うって」といっているけど、Cさんたちは「いやいや違うないって」「そういうのが目立ちたがりっていってんの」とAさんの意見を無視してしまっています。



話噛み合わない
んだよね

この劇で伝えたかったこと

普段の生活の中にも、意見が噛み合わないこともあるのではないでしょうか？そんなときに、自分が正しいと信じ込むのではなく、相手はどんなことを考えているのか、しっかり耳を傾けることが重要です。これから学校生活に少しでも今日学んだことをいかしていけるといいですね。



2学年修学旅行～想いを受け止める～

11月19日(水)から2泊3日の日程で、東北方面へ修学旅行に行ってきました。学びを深めるとともに、よい思い出を作ることができました。

1日目、企業別訪問学習では、震災を通して成長してきた企業から、逆境に負けない力強い生き方や創意工夫の仕方を学びました。ある企業は、清掃を主とする業種で、震災当時被災した町のために、自分たちになにができるのか考え、行動しました。救助車両、避難者の車が少しでも早く行き来できるように、がれきを撤去し道を作りました。余震が頻発する中、がれきが崩れる恐怖と闘ながら、活動したそうです。



みんな真剣に説明を聞いていました。

2日目は、まさに想いを受け止める1日になりました。黙とうを捧げてから桜ライン311での植樹活動、東日本大震災津波伝承館・一本松の見学、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館で被災された語り部さんから館内を案内していただきました。移動中のバスの中では、避難を促す防災無線を60回以上伝えた職員の方の話など、様々な震災のエピソードをガイドさんから教えていただきました。



植樹の様子です。



校舎3階にも押し寄せた津波の爪痕を目の当たりにしました。



遺構・伝承館で自分の想いをふせんにしました。

2年6組生徒のふせん

この震災学習を通して、今生きられる幸運、ありがたさを改めて感じました。震災で亡くなられた方々の気持ちを決して踏みにじらないように、生きたいと思います。今は助けられる立場ですが、将来自分が助ける立場になります。すごくよい体験でした。

旅行終了後、お世話になった施設へお礼状を書きました。その様子から、学んだことを色褪せさせない、自分事として捉え、事後の学習を深めていけると感じました。